

水稻生育診断情報号外

★★★気象の経過と早植コシヒカリの出穂期予測★★★

令和5(2023)年7月14日

栃木県農業試験場

- 出穂期は平年より **3~4 日早い**見込み。
- 7月10日までの本年の気象（気温の経過）は **平成30(2018)年及び令和2年(2020)年と類似**している。
- 今後は2018年と同様に、**さらに高温が続く**と予報がされている。
- 2018年は高温による品質低下（乳白米等）の発生はみられたが、一等米比率は93.7%で **一等米比率の低下はなかった**。

1 本年の早植コシヒカリの出穂期について

図1に、7月11日現在の栃木県内の早植コシヒカリ（5月4日移植）の出穂期予測メッシュ図を示しました(図1)。

平均気温（宇都宮アメダス）から算出した早植コシヒカリ（5月4日移植）の生育ステージ（DVS値）による7月11日現在の出穂期予測は、今後平均気温が平年並みで推移した場合、表1および図2のとおり **7月24~25日頃**（過去10年間の出穂期の平均は7月28日で、**平年より3~4日程度早い**）と推定されました。

表1 早植コシヒカリの出穂期予測

| 今後の平均気温の推移 | 予測される出穂期 |
|------------|--------------------------|
| 平年並み | 7月24~25日 (平年より3~4日早い) |
| 2℃高い | 7月23~24日 (平年より4~5日早い) |

※平均気温の平年値は1991~2020年の30か年平均

コシヒカリ 2023 年の出穂期

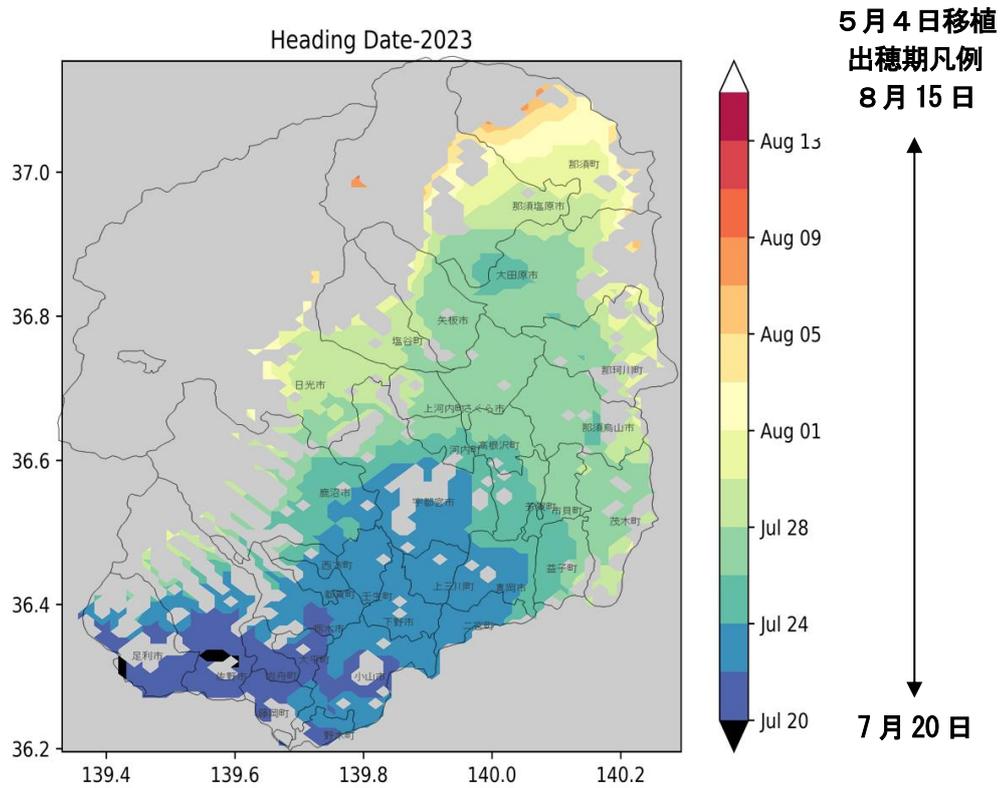


図1 栃木県内の令和5(2023)年早植コシヒカリ出穂期予測 (7月11日現在)

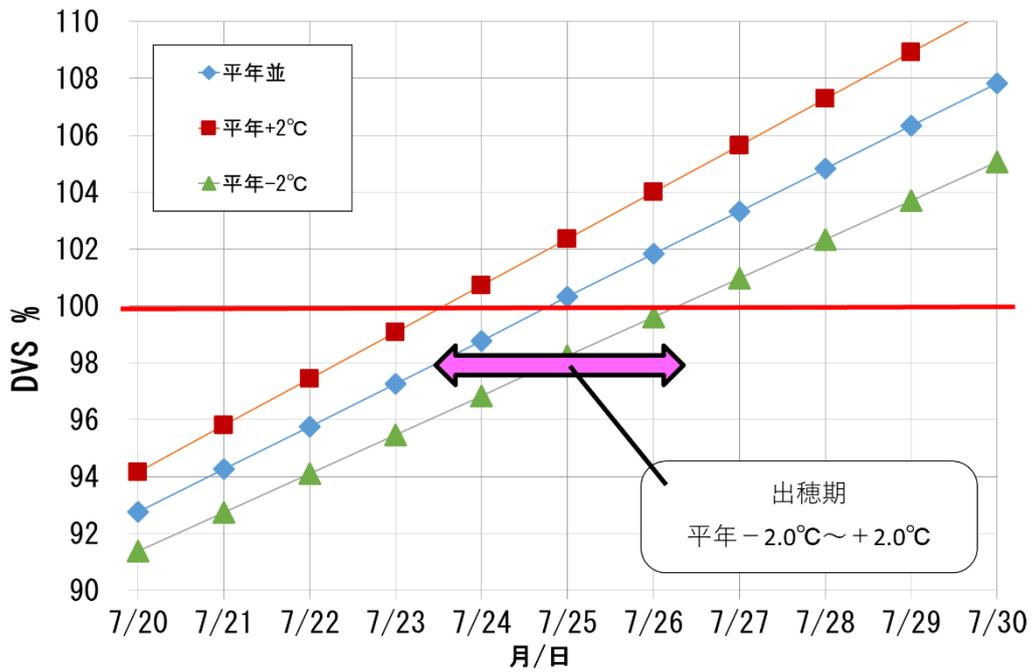


図2 早植コシヒカリのDVSによる出穂期予測 (7月11日現在、宇都宮市)》

2 稲作期間中における過去の気象の類似年について

(1) 平均気温から見た移植以降の気象経過

平均気温からみた移植以降の気象経過（5月第1半旬～7月第2半旬の平均気温）は、6・7月の気温が高く、平成30(2018)年および令和2年(2020)年と似ています（図3）。

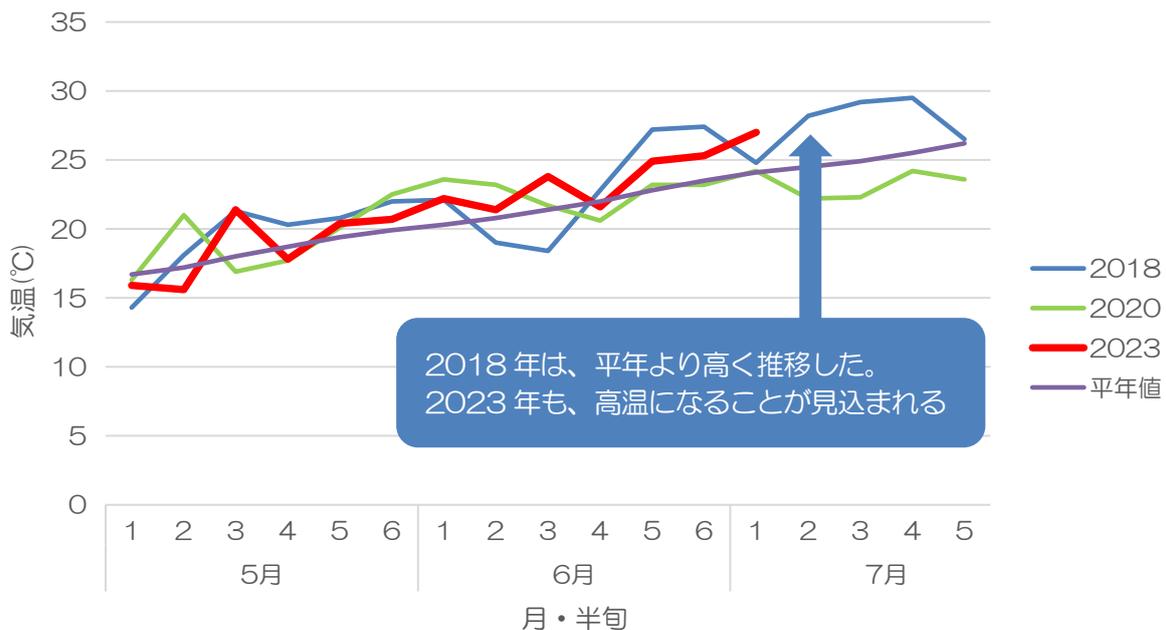


図3 2018年、2020年、2023年の5月から7月の半旬ごとの平均気温の推移

(2) 今後の気象経過

気象庁の1か月予報では、本年の向こう1か月の平均気温は平年より高くなる（特に予報期間前半の7月8日から2週間はかなり高い）見込みです。2018年は7月第3半旬から8月第1半旬まで継続して平年より気温が高かったですが、2020年の同期間は平年より低い気温でした。このことから、本年の出穂期までの気温は、平年より高い2018年と類似すると考えられます。また、日照時間も、平年並みか多くなる見込みなので、**高温障害を回避するため幼穂の状態や出穂の状況を観察しながら適切な水管理を行う**必要があります。水稻管理技術の詳細は、令和5(2023)年度水稻生育診断予測事業速報を参照ください。

3 2018年の農業試験場におけるコシヒカリの作柄

2018年の農業試験場におけるコシヒカリの平米あたりの籾数は、分施区で356百粒/m²、全量基肥区で331百粒/m²となり、**概ね平年並み**でした。2018年の高温による品質への影響については、二等以下格付に占める乳白米の比率は27.4%、一等米の比率は93.7%で前年を上回り、品質全般への乳白米の影響は大きくありませんでした。

4 2018年の病害虫について

2018年は、縞葉枯病が平年よりやや多く、葉いもち、紋枯病、イネツトムシは平年並み、心枯茎は平年より少ない発生でした。ウンカやヨコバイなどは平年並みの発生だった一方で、斑点米を生じさせるカメムシ類の発生が平年より多い傾向が見られました（栃木県農業環境指導センター 水稻病害虫発生現況）。今後、2018年度と同様の傾向が見られる可能性を考慮し、特にカメムシについてはその発生に注意してください。

水稻管理技術は、

令和5(2023)年度水稻生育診断予測事業速報

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g04/gizyutu/seiikusinndann.html>



病害虫対策は、

栃木県農業環境指導センターから発行されている

病害虫発生予察情報

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>（栃木県農業環境指導センターHP）



を参考にしてください